



2010～11 年度
国際ロータリー会長

レイ・クリンギンスミス

Weekly Report Niigata



2010～11 年度
新潟ロータリー会長

樋熊 紀雄

新潟 RC 4 月第 3 例会 (2010.4.19) No.2893

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 樋熊 紀雄会長挨拶

4 月 16 日には、新潟ロータリークラブ主催、公開シンポジウム「心の叫び聴こえますか」—現状はどうか、どのように対応したらよいか—が開催されました。

後程、地域奉仕委員会から報告がありますが、市内のロータリアンを含め 33 名に一般市民 59 名のご参加をいただきました。この度の参加者の中には、日常地域で実際にカウンセラーをされている方など専門的に行っている方が含まれておりました。司会進行役、金親さんが質問時間を十分取っていただきましたので活発に議論され、内容が深まったのではないかと感じました。社会奉仕委員会、地域奉仕委員会の皆様ご苦労様でした。

さて、先週は、浄財は、個々では少ないでしょうが集まれば大河になるということで「大河は細流の集まり」というポールハリスの言葉を引用しました。

国際ロータリー 100 周年を記念して創刊された「奉仕の一世紀」というデイビット C. フォーワード著作が刊行されています (日本語訳監修 菅野多利雄)。著者は、ロータリーの 100 年の歴史を河の流れに例えてそれぞれの章を進めています。

その結びには、1905 年、ロータリーの河はシカゴのつつましい源泉から始まった。何百万もの源泉が絶えず濾過され、やがては干からびた大地を潤し、地面に水を湛えた。だが、この河は違った。この河はちよろちよろと流れていたのが、速度と力強さを増した。やがて、他の小さな細い流れが湧き上がり、小川になる。しばらくは、曲がりくねってゆるく流れ、どの方向に向かうのか定かでない。小川から河になるにつれ、その運命は目的と安定性を育み、奉仕の一世紀を具現化した。

ロータリーの河は、水に依存する人々に生活をもたらした。絶望的な干ばつがあった所に生活があり、かつて押し黙って苦しんでいた子供たちが、今は水の中でふざけ回っている。異なった職業のルートとなり異なった土地に、まったく異なる信仰および文化を持ちながら、河で出会い、共に河を船で旅する人々を結んだ。

ロータリーの河は、とてつもない力を持つ。もはや、そ

の方向性を問題にするものその価値を疑い抱く者もない。唯一残された問いかけは、河についてではなく、河を船で

旅する人々についてである。

アメリカの法律学者オリバー・ウィンデル・ホルムズ氏は、「この世で重要なことは、私たちがどこに立っているかではなくて、どこに行こうかとしているかである。天国の港に着くには、時には風に乗って、また時には風に逆らって航行しなければならないが、しかし、漂流するものでも、停泊するのでもなく、航行しなければならない」と言っております。平和の風と奉仕の力強い潮流が、今日想像することさえ困難な遙か彼方の地平線まで、ロータリーの河を航行する者たちを運ぶことを祈る」と結んでいます。

この順風満帆と思われるロータリーの河の流れは、蛇行し、よどみ、浅瀬はやがて流れを止めてしまうことになりはしないか。ロータリーの危機が叫ばれています。

これまでに、二度の世界大戦と経済恐慌そして今日では新資本主義が発展の一時的に行く手を阻んでいるように思いますが、次の 100 年、今日想像することのできない課題を乗り越え遙か彼方の地平線までロータリーの河を航行する者たちを運ぶようロータリークラブとして舵取りが必要になりましょう。

香港島東 RC Heman Lam 会長からのお便り

本間 彊 WCS 委員長 様

先にメールを頂戴しておりましたが返信が遅くなって申し訳ございません。当クラブ WCS プロジェクトへの貴クラブからのご親切な寄付に感謝申し上げます。また、貴クラブの皆様が被災地の方を支援する為に時間を使いご尽力されようとしている事を理解できました。私達は地震や津波、放射能汚染で苦しんでいる日本の災害救援基金として \$2000 を集めました。貴クラブが支援されている被災地の方のためにそれを使って頂きたいと思えます。当クラブの会計や理事会で協議した結果、送金コスト削減という観点から私達は貴クラブからのご寄付と相殺させて頂き、双方の送金費用を有効に活用した方が良いという結論に達しました。数日中に WCS プロジェクトの内容について詳細をお知らせ致します。それは中国、雲南省地方の約 300 の村に清潔な水を供給できるシステムを作るものです。このプロジェクトは World Vision と一緒に行っています。全てがうまくいくように祈っています。樋熊 紀雄会長はじめ貴クラブの皆様へ、どうぞ、宜しくお伝え願います。

From: Heman Lam [mailto:hkclam@netvigator.com]

Sent: Tuesday, April 19, 2011 12:52 AM

To: '新潟RC' Subject: 回覆: W.C.S. Project

Dear WCS Committee Chair, Tsutomu Homma san,

I thank you for your earlier email and sorry for not reply to you sooner. We very much grateful for your kind donation to our service project and we understand your need to put in your time and efforts to help the needy in the stricken area. We have raised US\$2,000 for the Japan Disaster Relief Fund and we would like to donate to your club as a very small token of concerns for those who have and still are suffering from the earthquake, tsunami, and now the radioactivity leakage, the people that your club is currently helping. After consulting our treasurer and other board members, and based on the principle of least administration cost, we would like to propose to offset your donation to us, as this minimize the cost of transaction for transfer of both funds, and that the money can be fully utilized. We will describe to you in the next few days the World Community Service project – Building Clean Water System for a village in rural area of Yunnan, China that benefiting around 300 villagers, a project we worked together with World Vision. We hope all is well with you and your members, please relay our warmest wishes to President Dr. Norio Higuma and your members.

Warmest regards, Heman

WCS (World Community Service=国際社会奉仕) は、国際レベルで国際理解と、親善を推進する国際奉仕の一分野。二つの異なる国のクラブに所属するロータリアンが、WCSを通じて、生活を改善し、人類のニーズに応えるために、共同で奉仕プロジェクトを実施する。ロータリアンは、資金や物資を寄付したり、専門的な援助を提供したりすることで、プロジェクトを支援できる。

(3) 委員会報告

・川崎 嘉朗地域奉仕委員長（右記）

(4) 幹事報告（石川 治彦幹事）

- ・GWの事務局のお休みはカレンダー通りです。
- ・会員満足度アンケートを未提出の方は来週の例会時にご提出をお願い致します。

(5) 卓話 「レルヒ少佐と白根大凧合戦

100年の歴史をふりかえる」

白根大凧合戦協会会長 佐藤 弘氏

（ご紹介 宇尾野 隆プログラム副委員長）

事業報告

地域奉仕委員会

4月16日(土) 13:30～16:30 だいしホールに於いて新潟ロータリークラブ主催の市民公開シンポジウムを開催し92名の参加があった。シンポジウムの目的：全国の自殺者は、ここ10年間、毎年3万人以上で推移しております。新潟市は全国政令指定都市の中で、残念ながら自殺率の高い街です。現実はどうな状態なのか。私たちはどんなセンサーを持っていれば気づき、対応できるのか。そして対策はあるのでしょうか。このシンポジウムが自殺予防の何かの手掛かりになればと考え企画した。「“心の叫び” 聞こえますか」－現状はどうか、どのように対応したらよいか－と題して4名の専門家よりご講演をして頂いた。

講師と演題は下記の通り

1 「こんな叫びは聞こえますか」

新潟いのちの電話 前理事長 真壁 伍郎氏

2 子供達の叫び、学校での「ヒヤリ・ハット」

県立吉田病院子どもの心診療科 新田 初美氏

3 「救急外来で診る自殺企図」

新潟市民病院総合診療科 矢部 正浩先生

4 「心の叫びの捉え方と対応」

新潟こころの健康センター 所長 福島 昇氏

4名の講師の講演後に参加者への質疑・応答の時間を設け、活発な質問や意見交換があった。

聴くことの難しさ大切さを学び、実施されたアンケートからは、悲しい出来事として難題「自殺」についてとりあげたのは先見性があり大変よかった。ロータリーが市民のリーダーとして今後もインパクトを与えて欲しいというご意見もいただいた。ロータリー・クラブが地域でできることを求め、取り組んで行きたい。